

雜錄

●製鐵合同の前途　軍備制限會議の終幕に際し氣早な米國製鐵業者は軍縮成立を豫想し鐵需要の一割減を見越しユ・エス社では一層結束を固うし、獨立會社では内に在りてはユ・エスに對抗し、外に於ては獨逸に對抗すべく合同を計畫し見事に統一したが、これと相前後して米國獨立會社の合同に刺戟されて、本邦製鐵業の合同問題が再び現はれ兼二浦、釜石、日本製鋼などの諸會社から合同運動が開始され議會と同時にその運動は漸次高潮となつた、これが問題に就き八幡製鐵所某消息通は語る。

從來の合同問題は民間製鐵業の合同に留まつてゐたが、今回のものは八幡製鐵所を開放して半民半官とし民間各製鐵業者は各々の資本を製鐵所を中心として持寄り而して軍縮に對する經營難を切抜けんとするに在るらしい、此の問題は從來或斯業者に依つて唱へられてゐたことはあるが、今回の如く四五の有力な會社が聯合して組織的に運動を行つたことはない。

この運動に關し某氏は語る。

民間の製鐵業者は儲かる時には製鐵所を抱き込み大に利を得んとし、損する時にも製鐵所を仲間に加へて損を少くし笑してゐるが、此の運動を熟考して見ると製鐵所創立以來の方針は日本鐵需要の半を生産し其半を民間製鐵業者に生

産せしめ共に利益を得んとの事で從來は本邦需要を約九十万噸と見て居たが戰時中需要増加に伴ひ將來倍加する見込を立て第三期擴張工事を起し年額七十五萬噸の生産準備に移つた然るに軍縮の爲め年一割の需要は減じ製鐵所の全生産高の三分一に相當する海軍の註文は皆無となり從つて其餘力は民間市場向製品の生産に注がれ今後外國鋼材輸入防遏の爲に努める筈だが一方民間製鐵業者も海軍の註文杜絶で青息となり、強ひて廉價な市場向製品を造らなければならぬが、製鐵所の大發展で外國輸入品と相俟つて壓倒されることとは火を見るよりも明らかである、從來の製鐵所が陸海軍の半ば御用を勤める爲め國民の稅金の一部を割いて設立されたのに軍縮で純然たる民間のものと變らなくなり不況に加へるに軍縮で弱り切つた民間斯業を壓倒することになれば官業の横暴政府の製鐵業壓迫となつて現はれ、製鐵業保護案などが何の理由があつて設けられたのだから分らなくなるそれで民間斯業救濟の爲めに製鐵所の開放と合同が必要であり國家有事の場合には唯一の製鐵所のみでは決して足る者でないので民間斯業の保護が必要である、それが爲めには目下の窮境切抜策として製鐵所の開放及合同が眉の急を要する問題である、尙斯業は特に大資本でなければ經濟的に經營され難いとの意味からしても亦合同の必要が認められる、結局合同運動は最も其の當を得たものであるが從來の合同運動が斯業に限らず總てに於て不眞面目であつたので一般から冷笑を以て迎へられるのだから眞面目に此運動を續け、世間の誤解をといて而して後倒れて己むの勢を以てすれば決して成功しない筈が前述の理由でない

と思ふ、併し目下の運動は稍世間の視線を惹いてはゐるが餘り重大視されてはゐないので成功の域には未だ前途遼遠である云々。

○製鐵事業現況　満鐵、三井、三菱、東洋、大倉、田中の六製鐵業者は大正九年夏以來銑鐵同業會或は鞍山會を組織して各自の生産制限乃至手持品の處分に就て善後策を講じて來た、其結果現今では作業を繼續して居る熔鑄爐は僅に五基一日五百八十噸内外で之を大正八年の最も製鐵事業の旺盛時代十八基一日二千噸餘を製產した當時に比すると約四分の一に減退した次第であつて其状況を各當業者別に示すと左の通りである。

會社名	休止熔鑄爐(基數)	火入中熔鑄爐(基數)	現在一日製銑高
三井、兼二浦	一	一五〇噸(二)	二〇〇噸
三井、輪四	一二〇噸(三)	一〇〇(一)	一〇〇
滿鐵、鞍山站	二五〇(一)	二五〇(一)	一八〇
大倉、本溪湖	一三〇(二)	一一〇(一)	一一〇
田中、釜石	一二〇(一)	一一〇(一)	一一〇
	六〇(一)	一〇〇	一〇〇
	三五(一)	一	一
	二五(一)	一	一
合計	一、一三五(一一)	六二〇(五)	五八〇

尙此他に東洋製鐵會社が二百五十噸及百五十噸の二基を有して居て現在百五十噸爐丈操業中ではあるが、昨年四月以来八幡製鐵所で實費計算の下に委託經營中であつて製鐵は總て同所で消化する爲め現在では民間製鐵業者として直接一般市場と關係がない、次に大倉二十噸一基は目下作業中であるが、是は低拂銑鐵製造用であるが爲め從つて其製品が特殊なもの

だけに等しく市場には影響がない。

價格は低落に次ぐに低落を以てし昨今一噸に付き僅に六十圓見當に持合ひつゝあるが、一方其生産費を見るに最近調査に據れば八幡製鐵所四十九圓（内譯鑄石十五圓五十錢、石炭コーキス二十圓、石灰石三圓、勞銀十圓五十錢）釜石五十八圓、輪西六十八圓では等は孰れも工場生産費なるを以て輸送費其他を加算すれば生産費を償ひ得るは八幡製鐵所のみであつて、他は殆ど全部生産費を割る程度である所から各製鐵所共疲弊の極點に達して居る、製鐵所の多くは鋼鐵製造との兼營で、鋼鐵は最近稍利潤を見るに至りたれば其利潤を以て銑鐵の損失を填補しつつある現狀である、而して銑鐵價格は向後昂騰の見込ありや否を考ふるに海外銑鐵の生産費は一噸に付さ英國四十四圓、支那漢陽四十圓、獨逸二十二圓、印度タタ十五圓等であつて現在關稅一圓四十一錢と運賃とを加算するも英國は別とし、其他は輸入せらるゝ餘地綽々たるものあれば低落するとも昂騰するが如きことは無からうと觀測せられ、最近に至り民間製鐵所では何時までも損失を忍びて製造を繼續する譯に行かないから此際銑鐵の製造を廢業しやうとの説が有力となつて來た。

○廢艦と代艦起工　海軍々備制限條約第二章第三部第二節主力艦代艦並に廢棄表に基き帝國軍艦にして一九二二年即ち今年中に廢棄すべきものは現在既に艦齡二十年を経過して經費節約の爲め條約に依ることなくして曩に廢艦處分に決したるものを除く外

肥前(艦齡二十年)、三笠(同上)、鹿島(同十六年)、香取(同上)、薩摩(同十二年)、安藝(同十一年)、攝津(同十年)、生駒(同十四年)、伊吹(同十二年)、鞍馬

合	愛	加	土
計	岩	雄	佐
六	三五、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
隻	三五、〇〇〇	四〇、〇〇〇	三、六〇〇
七〇	三、一八五	三、一八五	三、六〇〇
二二二二〇	二二二二〇	二二二二〇	二二二二〇

ぬ事柄であつて見れば勢ひ二千二百餘萬人の失職者は完全に救濟が出来ぬ譯である。

即ち主力艦六隻建造中止の爲め延計算總職工は實に二千二百餘萬人の失業職工が一時に出來したと同じ計算を見るのである此外横須賀吳海軍工廠で目下建造中の巡洋戰艦天城、赤城の二隻は航空母艦に改造される由であるから此二隻からの失業職工は少くないとしても前記六隻が生ずる延計算二千二百餘萬人の失業職工を近い將來に漸次處理すると云ふ事は一大問題である、民間造船業者は前記三菱、川崎兩所と共に造船所合同或は共同計算或は工場、材料整理など種々善後策を講じて居るが結局は造船所としては以上の破棄軍艦建造に替る仕事が出ない限り兩造船所からも差當り前記の延計算に因る二千二百餘萬人の中大部分の失業者を見なければならぬ、兩所既に斯の如き結果を見る以上其他の當業者からも今後尙相當の失業者が出るものと見なければならぬ、最後に前記二千二百餘人の職工を商船建造に振替て見るに假に六千噸型貨物船を建造するときは一隻所要の職工延人數は前表から打算して十五萬人を要すると計上するときは前記六隻の主力艦破棄に因り失業する二千二百餘萬人の職工を救はん爲めに優に六千噸型貨物船約一千五百隻九百萬噸を建造しなくてはならぬ事となる、併し此一千五百隻中優秀客船或は小型船等の而も斯の如き大建造案は到底現時我海運界には望まれ

● 鎌夫賃銀調査 鎌山業の發達般盛に伴ひ鎌夫に對する方策も當局や當事者に依つて種々研究されつゝあるが、先づ其生活状態や衛生状態が如何なるものであるかと云ふ事が當面急を告ぐる問題らしく、曩に行はれた全國鎌山に於ける診療機關の調査鎌夫の生計状態調査の如き蓋し之が爲めにして、當局として多大の参考を得たので更に種々研究中なるが、殊に鎌夫の生活問題は重大な研究事項と云ふので前記生計状態の調査結果から一步を進めて夫々考究を重ねて居た、然して可成的速かに行はねばならぬ事項から先づ手を着ける事が肝要と云ふので、農商務省鎌山局にては今回全國各鎌山に於ける鎌夫の賃銀移動状態を調査する事になり、近く各鎌務署に通達する筈であると云ふ、然して這は豫ての懸案にして既に或鎌務署の如きは之が調査を行ひつゝあるが、要は戰後騒然として頻發しつゝある勞働問題に鑑み之が研究の一端とすべく又同時に鎌夫の生計状態を知る便ともなる爲め行は

るものゝ如く、既に鑛山局に於ては鑛夫の生計状態を調査したるが其結果更に進んで全國に於ける金屬、石炭、石油、非金屬各鑛山の鑛夫の賃銀を調査せざるべからざる必要を痛感し、懸案をして實現せしむべく各鑛務署より夫々報告を徵收する手配となりたるものならんが其方法は一年を四季に分ち三月、六月、九月、十二月に於て夫々鑛業權者より其月日現在の鑛夫賃銀を所轄鑛務署に届出でしむるのであると云ふ。蓋し此調査は時宜に適應したるものと云ふべく、當局は先づ之が實施に就て深甚なる意を致し第一回に限り印刷物を夫々鑛業權者に配布して夫れに依り届出でしむる豫定なりと云ふ。

●製鐵値段改訂 八幡製鐵所では去る七日附で製品鋼材の標準價格の一部に對し一噸に付三圓乃至十圓の値上を發表し、是と同時に工具用普通鋼は一噸四十二圓の値下を發表した、改正の理由は近時爲替相場の騰貴に伴れて大陸物の輸入難と内地の品薄の爲め鐵價は強含みの傾向を帶びて來たのに最近海外よりの報道は値上に一致して居る點等から價格改正を斷行するに至つたのであると改正の種類及び價格は左の如し。

厚板四分の一百二十四圓（四圓上げ）、丸鋼百二十四圓（同）、平鋼百三十五圓（十圓上げ）、工形、溝形百三十圓（三圓上げ）、縞鋼百四十四圓（四圓上げ）、角鋼百二十八圓（三圓上げ）、山形鋼百二十五圓（五圓上げ）、六十、七十五、八十磅レール百二十五圓（五圓上げ）、玉形、玉鋼、玉山形、管ゼット形鋼百四十圓（三圓上げ）、工具用普通鋼百九十八圓（四十二圓下げ）

此の結果は從來陸揚物と値開きがあつたが殆ど同價格となつた、併し今回の値上げは獨逸物の輸入の宣傳されつゝある

折柄最も注目に價する。

尙右は鐵材の外國ものゝ輸入難と需要時期と内地品薄とを見込んで思ひ切つた標準價格の値上げを斷行した、從來輸入防止の目的の爲めに屢々値下げを計つた同所が、獨逸品に脅かされて居る折柄に此の値上げは可なり市場に波紋を畫がかずには置かない、値上げの理由は爲替相場の騰貴との内地品薄が主なる點であるが其他の理由は軍縮の結果一般文化施設の増加を見越してゐる矢先、市場の在庫鐵が意外に消化された事と輸入難と云ふ變態的現象の結果である、殊に製鐵所は二月に約五萬噸の鋼材を拂出して尙續々引合殺到するに加へ今まで持て餘した大型もの、造船材料迄も荷動きを見るに至つたので旁々意を強くし値上げの斷行を見たものである、目下申込んでゐる造船材料の引合は五口の五、六千噸に達して居る、此の外三菱造船の千噸は既に契約済みとなつてゐるが、然し造船材料は確乎たる註文か否や今後持続するか否やは別論であるも鐵材需要期の七月頃迄は順調に向ふ傾向である、尙製鐵所目下のストックは約七萬噸で殆ど市場向きのものはなく大型もの造船材料橋桁材料のみであると。

●製鐵所厚板工場電化 製鐵所の第二厚板工場は目下動力を電化するため休止して居るが、同工場の厚板生産高は一箇年五萬餘噸で比較的薄い鋼板をも製作し得るが、製鐵所は同工場が二箇月後に電化装置を完成するのを俟つて目下就業中の第二厚板工場を閉鎖して海軍の需要減退の対策となす筈である、同工場は一昨年八月完成したもので工費四百萬圓を投じ世界六大工場の一で米國ルーケンス工場に比肩する程である。

○製鐵所の新設備

製鐵所の製鋼工業は第一、第二、第三とあつて第三工場は目下字前田に新設中であるが、此製鋼工場は獨米國等の工場を除いた外、何れも製鋼爐の横に瓦斯發生爐を設備して瓦斯を製造し、之れを製鋼爐に送つてゐるのであるが、右は甚だ不經濟であるので先進國では多く骸炭瓦斯を使用してゐる、そこで製鐵所では新設された黒田式骸炭爐の剩餘瓦斯（第二同骸炭爐は本年四月頃作業開始豫程）一日約二萬七千立方米突の半分を大形東側の第二製鋼工場に送るべく目下頻りに設備中であるが、斯は本邦製鐵界始めての試みで其成績に依つては第三製鋼工場にも設備する筈であると云ふ。

○製鐵所副產物好況

鐵不況と同時に副產物も聊か沈

み勝ちの模様であつたが昨冬來漸く市況持ち直り製鐵所では一時持て剩したベンゾールなど昨今羽が生えて飛ぶ状態である、同所では硫安年産五六千噸、ベンゾール一千噸の製出を見て居るが、此の程硫安は三月迄の先物拂下入札をした結果百六十圓に落ち前回の入札より五圓方騰貴して居る、ベンゾールは近時驚くべき勢ひで需用あり（自動車用等に）現在一噸二百五十圓位の市況であるが、斯は年額一千噸位で之れも三月末迄には拂下を契約してゐる、近く芒硝の入札をなす筈であるが一時抛棄してゐた硫酸鐵なども近來拂下の申込が多い由である。

○新潟の鐵山採掘 製鐵所直營の新潟縣赤谷鐵山では赤谷鐵山より鐵道省線に至る十四哩の線路工事が完成したので、省線沿垂驛より新潟築港に至る約一哩の鐵道線路工事を急設して本年中に採掘に着手する筈であるが、同鐵山の埋藏

鑛量は二百萬噸で目下の豫定では一年間十萬噸宛を採掘する筈である、同鐵山附近にある製鐵所々有青ヶ嶽鐵山は埋藏鑛量約三百萬噸に達し赤谷鑛山よりも有望である、製鐵所では山東還附に依り鐵鑛を山東方面より供給を受けることが困難となりさうなので、青ヶ嶽鐵山の採掘を開始する方針で最近調査に着手した、同鐵山は鑛山より十哩の新線を敷設すれば省線と連絡し得る位置にあるので採掘着手は困難でない、尙兩鐵山の採鑛を八幡に向け積出すのは總て汽船便に依る筈で、その目的を以て築造中であつた新潟築港も大部分完成を告げ殊に製鐵所にて使用する繫船壁の如きは水深十八尺の計畫が實際では二十四尺を有するので三千噸級の汽船二隻を同時に横着けとして積荷することが出来る。

○北九州銑鐵需要量

北九州の諸工業中鐵工業は其の主位を占め彼の戰時戰後に掛て非常の盛況を極めたるも財界

の動搖と共に甚大の打撃を受け、小規模の工場は倒壊の悲運に陥り規模大なるものも極度の縮小を行ひたる結果北九州は恰も火の消えたるが如き慘状を呈し、民間の註文は一般不景氣の爲め激減したるも官公衙用は忽ち復舊して漸次需要起り昨今相當註文ある爲め不景氣ながら大規模の工場は可成繁忙の體なるが九州全體に於ける毎月銑鐵の需要量は民營工場のみにても三千五百噸乃至四千噸を要すべく、更に八幡製鐵所の需要高を合算するときは東鐵を加へ少くも九千噸乃至一萬噸に達すべし、而して全國の總需要高は毎月約四萬噸なるを以て漸次内地の在貨も減少し一時三十萬噸と稱せられ居たるも昨今は僅十九萬噸に過ぎざる有様なるに供給力は二萬噸なるを以て遅くも本年中には在貨一掃ざるべく、其の曉には各

の地製鐵工場が再び活氣を添へ銑鐵も價格の暴騰を見るならんとは一般の豫想なり、現に満鐵の經營に係る鞍山銑鐵の如きは未だ試験中にて品質下等なるに拘らず既に來る六月頃の製品に對する迄註文を引受け、在貨皆無の姿なるより此上の注文に應じ難く、又漢萍銑鐵公司も同様にして一等品は僅三百噸位の在貨に過ぎず過日大倉組より該品の引合をなしたるも價格非常に高く門司沖渡し噸八十圓見當なるを以て需要者も躊躇の體なり、二等品とても七十五圓を唱へ頗る强硬なるが、本溪湖、兼二浦を始め釜石等も優良の製品を擧げつゝある關係上註文多く價格も亦頗る高く需要者に取りては甚だ苦痛の觀あり、併し茲に注目すべきは鞍山銑鐵さへも六十圓位の相場なるに最近獨逸品が一萬噸許り神戸に輸入されたるが、而も品質優良にして沖渡し五一圓の安價なる點より斯る安價の銑鐵は北九州にも相當需要あれど神戸より輸送せんか六十圓以上にも當る爲め九州に直接輸入せざれば利益に非ず、目下日本の銑鐵も七十圓以下では製產費に不足を告ぐる爲め各製鐵所も七十圓以上の價格を保守するにあらざれば製產力を復活せしむる事至難なり、去りとて騰貴すれば外國品の殺到に遭遇し内地品が脅さるゝ虞あり、軌條の如きも八幡製鐵所の標準價格に比し獨逸品は少くとも一割、米國品は五分の安價なれど今直に外國品の輸入を見るべき模様なし、尤も我國私設の諸鐵道が延長又は品替等に依り軌條の需要起り居れど軍備縮少の結果尙下落するならんとの觀察より一般註文を差控形勢觀望の體なれど何れは註文を發する事明かなるが故に入幡製鐵所も先高を見込み需給關係以上の標準價格を定め居れり、而して他日註文起るに至れば米國品も必ず騰貴すべ

きを以て結局先高の形勢なるが只日本銑鐵の恐るる所は獨逸品にして若しも前記の價格にて尙續々輸入されんか擡頭を抑へられんも限らずと云ふ。

●鞍山製鐵所選鑛所建設 豫てから研究問題であつた鞍山站製鐵所に選鑛所を建設する件は愈々決定し來八月から着手する事となつた、是は要するに満鐵が同製鐵所に對し將來積極的施設に出づる心算と見るべく、之に據れば嘗て満鐵が招聘調查に當つた米人技師の報告を窺知する事が出來る、選鑛所設立の上選鑛整理を斷行し能率増進を圖るに就ては其上の消化力に就ても見込が立つ由である。

●本田博士にベセマー賞牌 英國皇室の保護を受け同國皇太子殿下を會員とする英國鐵鋼協會は毎年其全年中最も鐵鋼學に貢獻した學者一名に對しへセマー賞牌を授與して其功績を表彰する慣例であるが、本年度の授賞者は日本に於ける鐵鋼學の世界的權威なる東北帝國大學理學部教授本多光太郎博士と決定し此の名譽ある賞牌は二月十五日同博士の許に送つて來た、そして來る五月四日英國倫敦で賞牌授與式を舉行せられ、英國大學教授が博士の代理として式に參列する筈である。

右に就き本多博士は語る。

『英國の鐵鋼協會では毎年世界に於ける鐵鋼研究に偉大な貢獻を爲した人々に對し及び優秀な研究發表を爲したもの一人を限つて同協會最高のベセマー賞牌を授與して來たものので自分は毎年同協會に對して研究論文を發表して來た、授與式は五月で誰かに代理を頼まうと思ふて居るが從來の

例に依ると代理は各國共其土地に駐在する大使とか公使とかであるから自分は駐英林大使にでも頼みしやうと思つて居る云々』。

教授即ち研究教授が置かれる事にならう、何せ此處一二ヶ月の後には仙臺の獨立した金屬材料研究所が特設されることになる。

● 鐵鋼研究所擴張

東北大學附屬鐵鋼研究所擴張計畫

に就ては該計畫案成立の手續きさへ順潮に取運ばるれば来る

四月早々北大附屬鐵鋼研究所は全く東北大學からは獨立した

文部省直屬の研究所となり名稱も金屬材料研究所と改稱される筈で目下關係當局は其準備を進め官制等も文部省から法制局に廻附される迄に至つてゐる、それに豫算案が衆議院を通過し貴族院の質問も打切りとなつたので此金屬材料研究所に要する豫算額五拾餘萬圓(三ヶ年繼續臨時費經常費合計)の前途に略見當がついたといふので文部省筋も油が乗り出してゐるといふ、官制等に就ては未だ詳知する由もないが、其大要を確聞するに金屬材料研究所は獨立した研究機關として東北大學に附置される、隨つて大學總長は新研究所の研究事務に關しては委任の形に就いて監督權を持つたに過ぎない、組織は冶金、製鐵、製鋼、鑄物の三部が新設される事になる、各部の首腦者は曾彌、村上、石原(寅)の三理學博士で何れも所長たるベキ本多博士の秘藏児といつた俊銳である、その下に山田、酒井、石原の三助教授外二十餘名の講師助手が配屬する事になるから今迄すらも學界を驚かせてゐた同所は新陣容を完備して世界唯一の名に副ふ譯であるが、兎角異論ある教授助教授の名稱存置に就いては法制局邊りに多少の形式論が行はれても頭のいゝ學者を引ッ張らうとするには怎うしても技師の名稱はソリが合ない現狀だから大學の講座を擔當しない教授助

● 獨逸炭坑勞働者の能率並賃銀率

(大正十年十二月十七日附在)
漢堡帝國領事大野守衛報告)

獨國に於ける炭坑業從業勞働者は戰時中より戰後に亘る營養缺乏物價騰貴等の關係上其の勞働能率戰前に比し著しく減退したるは事實なるが戰後獨國の石炭所要量の増進に顧み事業家側は勞銀の引上、生活條件の改善其他の方法に依り極力勞働能率の昂上に努力すると共に勞働從業者の員數を増加して急需に對應するの策を講じ居れる結果產炭量(一九二一年分獨國總產炭量八年度完結を待ち報告す)は幾分良好なる結果を示せるものゝ如くなるが勞働能率は戰前に比し尙著しく不振の狀態に在り其の對照詳細左表の如し。

一九二一年七月に於ける獨國及ザール炭坑勞働者員數は戰前一九一三年に於ける同員數(各月平均)に比しルールに於て三割九分七厘、上部シレジアに於て三割八分八厘、ザールに於て六割二分七厘方增加し、一勞働者一勞働日に於ける採炭量はルールに於て四割三分八厘、上部シレジアに於て六割四厘、ザールに於て四割二厘減退せり、其の上部シレジアに於ける減退特に顯著なるは同地方擾亂の影響に因るものにして一九二一年四月に於ては其の減退率は一九一三年四割七分六厘に止りたり。

鐵
與
鋼
第八年
第一參
號

從業勞動者數
三九〇・六
千人

一人一勞動日
九七二
基瓦

上部シレジア

從業勞動者數

一勞勸日

其 他

四七五・三	四七九・三	四八一・三	四七四・二	四七九・一
四八四・五	四八四・五	四九一・一	五〇二・四	五一・三
五一九・七	五二七・三	五三二・八	五三二・八	四九六・六

五三七
五九四
四九一
五六九
六三一
六二二
五六五
五六八
五八二
五九五
六二二
六〇五
五八二

一六二・七	一六四・二	一六七・八	一七〇・一	一七二・一	一七三・九	一七五・〇	一七四・四	一七五・四	一七七・八	一八一・六	一八二・三	一七三・一
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

六六〇
六三九
六二五
六三二
五九三
六三七
六四二
五〇五
六〇五
六〇四
六二六
六一七
六一六

六六〇	六七六	六八八	七〇一	七一二	七一六	七二一	七二四	七二五	七三九	七四二	七四三	七一二
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

四四六	五〇一
四九七	四八四
四七四	四七〇
四七六	四四三
四九九	四七四
四九四	四九二
四七九	

九二・四
九三・〇
九二・八
九五・五
九四・九
九一・七
九六・八
九八・四
一〇〇・一
九八・七
一〇二・五
九九・一
九六・三

五三七·二
五三九·二
五四〇·六
五四三·三
五四五·七
五四五·五
五四七·四
五四八·五

六二一
六三三
五六九
五五九
五四九
五五九
五四六
五四一
五四七

一八三·五
一八四·三
一八二·〇
一八二·五
一六八·一
一六七·七
一七一·一
一七四·七

六四二
六六二
五九二
六一七
二五二
三八三
四六五
五四八

七四・七
七四・〇
七四・三
七四・二
七四・一
七五・一
七六・〇
七六・二

五〇一 四八九
四七四 四八〇
四九三 五一九
五〇六 五三一

九九·七
一〇〇·四
一〇一·六
一〇一·九
一〇〇·一
九九·三
一〇〇·六
一〇〇·一

尙戦前(一九一三年)と戦後(一九二一年)に於ける労働效率(坑内坑夫一人一労働時間の採炭量)を對照すれば左表の如くにして一九二一年分未だ一九一三年分に及ばざること遠く且つ一九二〇年分(各日平均)にも劣れるを見るべし。

炭礦坑夫の労働效率(一人一労働時間)

獨國炭坑労働者勞銀表(戰前と對照)		一九二一年	一九二一年	一九一三年より一九二一年第三期に至る
	(註) 鑛務管督ドルトムンド	自一月至三月	自四月至六月	勞銀増加率(一九一三年を一〇〇とする)
硬炭(各地方平均)	六〇・三〇布	六三・二一布	一一三五	一九二一年
褐炭(各地方平均)	五六・〇四	五六・九八	一二五八	自一月至三月
平 均	五八・一七	六〇・一〇	一一九〇	(一人一シフト) (一人一シフト)

一億五千萬馬克、負債償却三千五百萬馬克、社債三億一千四百萬馬克、保険及租稅一億七千四百萬馬克等を差引き純益金九千八百萬馬克で前期に較べて二千馬克の増加である。

● 銑鐵強調 銑鐵目下の需要は活潑と云ふ程でもないが海外高の爲め輸入不可能であり一方内地産も歩々しくないので在荷は逐月減少の傾向を辿つて居る、尤も最近の正確なる在荷數は不明であるが昨今の在荷は製造家の手持と市場の在荷とを合せて約二十萬噸となり昨年末に比すれば約一萬四千噸見當の減少を示して居る斯く在荷が減少した關係上製造家は一齊に約二圓方の値上をした爲め東京市場に於ける大口取引相場も前週頃より漸次具體的に現はるゝに至り目下標準物たる輪西一號は六十四圓見當を唱へ而も製造家中には品物に依り賣止めをして居る向きもある、殊に追々需要期節に向つて來たから市況も段々引締つて來るだらうと觀測せられて居る。

● 鋼材持直 米國獨立製造家が注文取込みに腐心するの結果として同國鋼材市況も幾分悪化した形勢を見せたが併し日本に需要の多いエキストラ物の値段は並時物の値段に比し割高であるから單に安い様な感じがするのみで事實上安い物が輸入される譯でない、又獨逸物も相變らず高い上に爲替關係に因る輸入不利の爲め益々割高を示して居る、而して内地市場は前月頃底入模様であつたが今月に入り愈々持直し丸棒の一部が幾分の下押を見た外は一般に上進を示すに至り特に鍛力の如きは最近罐詰用として弗々需要を喚起する傾向を呈して來た爲め手持筋は賣控への態度を執つて居るさうである。